

加西市の福祉政策について



中右 憲利 議員
(21 政会)

問 障がい者の就労訓練と工賃アップの取り組みについて。

答 市役所内の軽作業等は業務委託しており、工賃換算は1時間当たり約250円です。今後、訓練事業の内容を精査し、1時間当たり300円を目標に引き上げを考えています。また、身体障害者福祉協会では自主事業としてトウモロコシ栽培を検討されていますが、そのような場を活用させていただいて、市役所で行えないような就業訓練を実施し、正規の最低賃金を目指そうと考えています。

問 障がい者の皆さんが、市役所で昼休みにコーヒー、パンなどを販売されているが、市民会館、福祉会館、加西病院でも食堂等がなくなっており、就労支援として障がい者の方に何かしてもらえないか検討してはいかがでしょうか。

答 接客訓練、販売経験等就業訓練として、市役所でコーヒー等の販売をしていただいています。それを拡充できるかどうか、各団体と協議し、管理する部署とも調整したいと考えます。

問 子どもの貧困対策の現状について。

答 子どもの貧困対策については、貧困の連鎖を断ち切るため、学習支援に努めています。生活困窮世帯等で、不登校等の児童生徒については、家を出ることからはじめ、最終的には学習する

ことを念頭に置きながら取り組んでいます。学習支援の場合は、毎週1回地域交流センターで行っており、他市に先駆け県下でも評価される取り組みとなっています。

問 格差が出やすいのが、高校進学から卒業のときかと思う。市として何らかのサポートを計画すべきと思うがいかがか。

答 国も生活保護の範疇で、大学進学や高校進学について一定の支援を行っていますが、市としては、現行の公的支援がない部分について、他市町の取り組み等を参考にしながら、今後、施策を検討したいと考えます。

■その他の質問項目

- ・ 主要道路等の整備
- ・ 観光施策
- ・ 北条旧市街地の活性化

おもちゃ図書館について



織部 徹 議員
(21 政会)

問 近年、少子化で子供が一人、または二人の家庭が多くなっているように思う。例えば、男の子と女の子の二人いる家庭では、おもちゃの種類が男の子と女の子と異なり、高い値段で購入しても、あまり使わないまま捨ててしまうことになる。しかし捨てるとなると面倒でもあるし、大変もつたいないことにもなる。このおもちゃを何とかうまく再利用できれば、子育て支援のためになると考える。不要となったまだ使えるおもちゃを集め、必要とする

子供に貸し出すこと等を行う、おもちゃ図書館を実施することができないかお聞きしたい。

答 おもちゃ図書館は、日本では国際障害者年の1981年東京都三鷹市で活動が始まり、83年におもちゃ図書館全国連絡会が結成されたようです。もともと、障がいのある子供たちに「おもちゃのすばらしさと遊びの楽しさを」という願いから始まった活動で、現在では障がいがある子供もいない子供も、共に遊びの中で育ち合う場や機会の提供、また、おもちゃそのものを貸し出したりしています。現在、加西市ではこのような事業は展開しておりませんが、議員ご提案の趣旨を鑑み、実施主体や担当課、また、おもちゃの収集やその活用等、具体について検討したいと考えます。

要望 まだ使えるおもちゃを集めて貸し出したり、または譲ったり、そのような活動を行うためには、おもちゃを消毒し、メンテナンスや修理等も行わなければならない。さらに、種類別に見本も並べておく必要もあることや、保管場所も必要になってくると思う。今後、こども園などの整備が進む中で、空きとなる施設もあることから、これらも検討していただきたい。



■その他の質問項目

- ・ 県道の整備について
- ・ 新南部給食センターの建設について